

2022年11月24日

請願人 行政を考える住民の会

事務局 宮崎邦彦

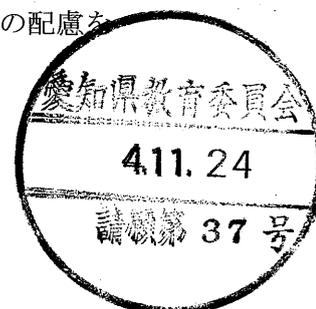
住所

保健体育の授業（水泳）における、学校水着、「ジェンダーレス水着」導入を求める請願
請願の趣旨、理由

- 1 水着の授業 男子生徒と一緒に（2022年8月20日 朝日新聞（声）資料1）
愛知県中学生の投稿である。クラスの友達も、「水着は着たくない」「異性とは一緒に入りたくない」ということが多くいます。もう少し楽に体育の授業が受けられたらいいのになと思います。とある。女子生徒等に対しては、セクハラ。児童生徒に対しては、虐待に等しいことを、してきたことになる。
まったく当然の投稿・意見であるといえる。至急何とかしなければと受け止め請願に至りました。
- 2（2022年6月16日 教育新聞 資料2）学校水着もジェンダーレスに 体のラインや肌の露出抑える。今年度から、3校、採用予定とある。
男女共用の水着 企業開発 性別意識しない水着授業に（2022年6月20日 日本教育新聞 資料3）（開発者として）子どもたちの水着に対する不安をなくし水泳授業に前向きに取り組める手伝いできれば、とある。
- 3 男女一緒の水泳、生徒が違和感 性別意識意すぎない心を 水着の選択肢増やして別習では教員足りない 指導要領「原則共習」2022年7月11日 日本教育新聞 資料4）（水泳授業）、中学生や高校生が地元紙に対し、男女一緒に授業を受けることへの違和感や疑問訴える声を相次いで寄せた。とある。
- 4 男女同形の水着欲しかった 体形隠し 日焼け防ぎ 着替えは楽 100校が導入検討、学校現場の要望きっかけに 62歳「中学の頃あれば」性別に悩み「気軽に選べる」（2022年8月16日朝日新聞夕刊 資料5）。
なぜ、生徒の体操服、「ブルマー」が、変更になった時、水着の変更もということに、気づかなかったのか、悔やまれる次第である。
- 5 これまで、保健体育の水泳授業（水着で）において、子どもに対して、苦痛等を強いてきたことを、認識したうえで、ジェンダーレス水着の導入を求めるものである。

請願事項

- 1 2023年度から、保健体育授業（水泳）は、「ジェンダーレス（資料参照）」水着を導入することを、公表すること。
- 2 学校は（保健体育での水泳の授業は）ジェンダーレス水着を取り入れること。
- 3 新たにジェンダーレス水着を購入する児童生徒には、購入に当たり補助金等の配慮をすること（場合によっては、予算化すること）



添付資料

- 資料1 2022年8月20日 朝日新聞
- 資料2 2022年6月16日 教育新聞
- 資料3 2022年6月20日 日本教育新聞
- 資料4 2022年7月11日 日本教育新聞
- 資料5 2022年8月16日 朝日新聞 夕刊

口頭意見陳述希望